



久 久 比 奴 末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 6 0 号

1 9 9 1 年 7 月 9 日

三浦半島の文化財をたずねて。

文化財をたずねて 川島禎一・孝子

葉山御用邸について 塩 沢 務

鶺鴒 沼 を 語 る 会

平成 3 年 6 月 1 8 日

会 員 各 位 殿

鶴 沼 を 語 る 会 代 表

塩 沢 務

役 員 補 充 に つ い て の お 知 ら せ

6 月 8 日 役 員 会 に 於 て、こ の 度 下 記 の 方 々 に 役 員 を お 願 い し ま し た。

記

川 上 恵 久 氏 石 田 鈴 雄 氏

任 期 平 成 4 年 3 月 3 1 日 ま で、両 氏 よ り ご 了 承 を 頂 き ま し た、宜 敷 く
お 願 致 し ま す。

三浦半島の文化財をたずねて

川島禎一・孝子

5月14日、緑の彩が目に見える薄曇りの1日、語る会一行21名、「三浦半島の文化財をたずねて」の見学に出発する。

国道134号線を海岸沿いに七里が浜。逗子開成中学生遭難の碑を見る。その死を悼んで、人々に愛唱された、真白き富士の嶺 緑の江の島 仰ぎ見るも 今は涙 帰らぬ十二の 雄々しき霊に……………作詞借曲 鎌倉女学院三角錫子先生(明治43,1,25日)であることを知った。
稲村ヶ崎、太平記の新田義貞、剣投ぜし古戦場を後にして。

第1訪問地和賀江島にいたる。

◎「和賀江島」鎌倉時代の執権、北条泰時が、貞永元年(1232)に完成させた築港跡である。約100年後、極楽寺が修理管理をしたという。

当日、幸運にも、干潮に恵まれ、砂利状のものが推積している、その全容が一望された。現在でも、当時の難波船の積荷の一部が出土するそうだ。バスは更に進んで、徳富蘆花の兄、蘇嶺の筆による「不如帰」昭和8年(1933)山腹の波子不堂前の海中碑が建てられました。

葉山の狭路を抜けて第2の目的地葉山しおさい公園に到着する。

◎「葉山しおさい公園」葉山御用邸付属邸跡地を、国有財産審議会から葉山御用邸付属邸を、葉山町に無償貸与、日本庭園として保存されることとなった。

公園内には、ミニ博物館がある、「相模湾の海の生物」をテーマに、昭和天皇採集品深海の珍しい生物が展示されている。天皇の御研究に関しては、かねがね耳にはしていたけれども、実際の御成果を目の当りに

博物館（旧御用邸付属邸の御車寄せを復元）



して、御造詣^{ごぞうけい}の深さに、敬畏^{けいゐ}を表しました。

相模湾に面した、三浦半島の海岸線には様々の環境があり、それらに適応した、多様な生物、又黒潮と親潮の両潮の流れが流れ込むお蔭で、南北両生物が住んでいるそうである。

魚類、貝類、甲殻類を中心に、巾広く展示されている博物館である。公園の中心には、回遊式日本庭園がある。松林の続く海べりに出ると、一角に、昭和天皇が海で御採集のさいに、使われた小船が、陸に揚げられている。白木が野ざらしにされて黒ずみ、時の移つろいを感じる。公園で、一時の逍遙を楽しむ。 第3の目的地、秋谷の里へ向う。

◎「梵天鼻と奇岩立石」（バス内より見学をした。）

海岸の波ち打ち際に、三浦七石の一つ、立石がそそり立っている。江の島の向こうに大山、更に夕暮れの富士を後背した姿は、安藤広重が

描く、「三浦秋屋の里」となった景勝地である。

車は南下して、かつて、完全武装の自衛隊少年兵が渡下訓練で溺死したといふ場所、林を通過する。この地点より陸地を横断して第4目的地横須賀市立博物館へ。

◎横須賀市博物館は1954年4月、日本の開国にゆかりの深いペリー上陸の地、久里浜に開館し、1970年、中央公園内に本館建設し、自然博物館に隣接して人文博物館を建設し歴史・民俗部門も移転し、総合博物館となりました。キャンパスは、余裕を持たせてある、皮肉にも、ここへ至る道路は、旧態然として、アンバランスに苦笑を禁じ得なかった。

☆自然展示室 ◆三浦半島の動植物 ◆発光生物 ◆マウナゾウ
◆三浦半島をとりまく地形 ◆三浦半島のおいたち

☆人文展示室 ◆採集の時代 ◆農耕のはじまり～都と三浦半島
◆三浦一族と三浦半島 ◆江戸幕府と三浦半島 ◆村の暮しと三浦半島
◆ペリーノ来航と三浦半島 ◆横須賀製鉄所の開設。

以上の展示品が、たっぷりとした館内に、静寂そのもののの中に、足音さえ憚られる雰囲気の中に展示されている。

漁師、農家の家の内部が、140年前そのままに建てられ、当時の様々な民具を見学できた事は幸いである。

軍港であるから、その必要性に応じたのだろうが、当地に、1865年、横須賀製鉄所が既に存在していた事は驚異である。

前の文化会館で昼食、第5の目的地、三笠公園を訪れる。

◎三笠公園。 東郷元帥の銅像を中心に・水・光・音をテーマにした公園である、その一角に、軍艦三笠艦が展示されている。

記念艦三笠



日露戦争中、東郷大将率いる連合艦隊の旗艦で、日本海開戦で、ロシアのバルチック艦隊を全滅させた、日本海軍の代表的な軍艦である。

思ったより小型で、内部には、当時の弾痕が処々にみられる。東郷長官室、海軍軍人の遺品、写真、水兵のハンモックの寝床等々が陳列されている。戦旗はためく艦上に出ると、沖合に灰色をした自衛艦が横たわっていた。いよいよ最終、第6の目的地、神武寺に向かう。鷹取山山復に建立されている為、マイクロバスでは無理とのこと、急坂の参道を登る、皆さんの健脚なに驚く、登りつめた処に、山門がある、江戸時代著名な左甚五郎の作と伝えられ、地震、台風にも絶えた建物ある。

切り通しを抜け、客殿に至る。天然記念物、イワタバコ群落が切通しから客殿脇の崖一面に繁茂していた、皆採り尽くされて残っているのはここだけだそうだ。

◎「神武寺」医王山来迎院神武寺（天台宗）奈良時代、724 年聖武天皇の勅願により、行基がこの地に下向し、十一面観音・釈迦如来・薬師如来の三尊の像を祭ったのが起こりという。又、頼朝が、高雄の文覚聖人を住持に呼び寄せ、大いに栄えたという。鎌倉幕府が滅亡すると、神武寺は鎌倉宝戒寺の末寺となる。「神武寺客殿仏像」薬師如来・日光菩薩・月光菩薩（重文木像）の御開張は33年目に御開帳となっていた秘仏であるが、近年毎年12月13日午前8時より12時までに御開帳されているとい^う。行基菩薩坐蔵「客殿重文木像安置」釈迦如来・不動明王「鎌倉・室町時代重文木像」大威徳明王・千手観音「絵像重文」以上4点は鎌倉国宝館に安置。本堂には数多くの仏像が拝観できた。

神武寺周辺のやぐら。 「神武寺親王やぐら（久明親王のものらしいが、遺骸を収めたものでなく、御子、守邦親王が造立せられたのではないかと伝えられている。）

みろく窟。神武寺周辺には、鎌倉時代のやぐらもあれば、江戸期以降に造られたものも混じっている。この窟中、こと更大きい、やぐらである。この岩窟中央には弥勒仏石造がまつられてある。その両辺には、神武寺世代の墓碑がまつっていた。

この度は、県社会教育に願って特別に、ご住職に説明をお願いした。やぐらより、薬師堂（本堂）への途中。寄せ木造りの当時の鐘楼は安政3年(1856)建造物である。『医王山号』楼門宝暦年間(1751-63)（重文建造物）楼門であるから仁王尊は安置しない。本堂（薬師堂）は文録3年(1594)再建。（重文建造物）鎌倉幕府歴代将軍の信仰厚く源実朝18才の時、参拝された。・楼門の床・足廻りを（奈良の宮大工により）解体

修理行っている。楼門をくぐると「なんじゃもんじゃ」の木、江戸時代ポルトガルから移植されたホルトノ木、別名モガシとも称される。薬堂の裏手坂道を登ると「女禁制」と刻んだ石碑がある、

これは、日吉山王権現を勧請して堂宇を建て、又那智三社を山頂一帯を清浄地と定められたからで明治維新まで守られ、女性は本堂から上には登れなかった。予定通の見学を無事終えて、海岸沿いを帰途につく。

「從是右奥之院・女人禁制」



楼門と「医王山号額」



三浦半島の文化財をたずねて

塩沢 務

91年史跡見学は、和賀江島・葉山しおさい公園・秋谷の里・横須賀市立博物館・三笠公園・神武寺見学、特に和賀江島が干潮時で島全体の浮上を見ることができた、葉山しおさい公園昭和天皇海洋生物コレクション・博物館三浦の歴史・神武寺の建築と葉タバコ等が心に残りました



ー復元旧御用邸付属邸の御車寄せ前にてー

葉山御用邸について。レナード・デ・マルチーノは、明治18年(1855)から28年まで、駐日イタリヤ公使として日本に滞在し、^{つと}夙に葉山の風光明媚と温暖な気候に着目、いまは御用邸の^{みなみでい}南邸となっている場所に土地を求め、明治24年 1月31日別荘を建て、しばしば来葉したが、明治26年、徳川茂承侯爵に譲渡、堀内の後に細川護立侯爵邸になった地移った。

日本近代医学の父と言われるエルウイン・フォン・ベルツは、明治9

年、在ベルリン日本公使館から公式に日本へ招聘され、東京医学校（東大医学部）の内科教師として来日、大学に於て活躍するとともに、各国外交官の診療などを行い、国際社交界で大きな地位を占めいた。

また、皇室の侍医としても活躍、日本人医師団がこぞって反対していた皇太子（大正天皇）のご婚約をむしろ積極的に推進すべき旨奏上、のちに明治天皇の厚い信頼をうけ、明治38年6月9日、在日29年の功績を残してドイツへ帰国のため横浜港を去るまで侍医として重んぜられた。

ベルツは、マルチーノ公使の案内で葉山を知り、特に医学者の立場から各方面に推奨、自らも森戸海岸のほとり（現コート葉山）に別荘を構え、日本人妻ハナとしばしば訪れている。

ベルツは、転地療養の有効性を皇室に申し出、沼津・箱根・葉山に御用邸を置くことをすすめた。

明治26年3月明治天皇から御用邸建設の^{ちようきよ}聴許を得た皇太后^{だいに}大夫杉孫七郎は、香川皇后大夫、^{たくみのかみ}塩内匠頭等と実地検分を行った。

その後、地主守谷彦右衛門外13名から土地お買上げの事が決まり、直ちに着工、明治27年1月1日早くも竣工のはこびとなり葉山御用邸と命名され、その2月はやくも英照皇太后（孝明天皇皇后）行啓があり、約1ヶ月滞在された。これが御用邸ご使用のはじまりである。

明治33年2月、明治天皇はさきにベルツより皇太子殿下の婚約をすすめるべき進言をお受けになっていたが、公爵九条道孝第四女節子妃を皇太子妃決定、その勅書を皇太子（大正天皇）が御受けになったのもこの御用邸である。

御用邸付属邸は、本邸から北へ約200メートル離れたところにある。
もと岩倉具定公爵、金子堅太郎伯爵、井上毅子爵の各別荘であったものを御買上げとなり、太正8年（1919）に竣工したもので当時澄宮邸とも呼ばれていた。

この付属邸は、日本歴史の上からも郷土史の中でも大変重要な意味な意味をもつ。

大正天皇は葉山御用邸をこよなく愛され、その行幸の数、滞在日数は圧倒的に他の御用邸を抜いている、大正15年8月10日以来、付属邸に於てご病氣療養中であった大正天皇は、全国民のご平癒祈願もむなしく、同年12月25日午前1時25分崩御あそばされた。

12月13日より病氣お見舞のため御滞在中の皇太子（昭和天皇）同妃は直ちにこの付属邸に於て即位の儀を執行され、同日午前3時10分天皇の位を継承された。

同日同時に元号を「昭和」と定める詔勅を発せられ、ここ昭和は葉山より始まったのである。

この皇位継承の「践祚の間」はこの度新御用邸の中に取りこまれ、長い日本歴史の中ではじめての地方における「皇位継承」の部屋として、永久的に保存されることになった。

長い間、町のシンボルとして親しまれて来た御用邸が焼けた。昭和46年1月27日の午後10時過ぎである。

総檜造であるから火の回りは早かった。御寝所の辺りの火焰は、大木のように中天に向って仁王立して、もの凄かった。

もう建物火災を消すことは不可能と判断して本邸消火を断念、数10本の消火ホースのうち2本を御車寄^{みくるまよせ}に残して外は周囲の庭木に向け一斉に放水。庭木を生かすことと、民家に類を及ぼさないためである。幸い類焼もなく庭木もほとんどが助かった。同日夜宿直の井関侍従から葉山御用邸焼失の報告をお聴きになった天皇陛下は「けが人はなかったか」「民家に類焼はしなかったか」と大変にご心配になられたと仄聞^{そくぶん}し、あえて類焼を防ぐため消火ホースを外に回したことを思いホッとしたものである。

後にこの火災は、精神分裂症の青年の自首により解明はしたが、何とも残念なことであった。

焼失の1月28日早朝、町議会全員協議会が招集され、全会一致で御用邸再建が決議がされた。

続いて2月1日全町上げて御用邸再建推進会を結成、町民有権者ほとんどの再建陳情の署名を得た。

町民75名がそれぞれ貸切バスで署名簿提出のため政府、宮内庁に向ったのは早くも2月15日の事であった。

しかし、再建についての周囲の事情はなかなかきびしく、特に同じような条件をもつ須崎御用邸の造営は大きな障害となっていたようである

しかし、町議会・町民の再建要望は根強く、私はあらゆる縁をたどって政府へ総理府へ宮内庁へと執拗に陳情をつづけた。その結果幸いにも昭和52年の暮、53年度予算に環境調査費が計上されることが確定したこの時の喜びはこの上ないものであった。

もちろん、地質・騒音などの調査は満点でバス、52年10月7日には

待望の起工式が本邸前広場で行われた。そして56年11月6日、町民が久しく待ち望んだ新御用邸が落成、11月8日には13,500人の町民が御用邸を参観し、28日には早くも天皇皇后兩陛下の行幸啓があり、多くの町民は沿道に整列、国旗の小旗を振ってお迎えした。

夜は、6時30分、長者ヶ崎より一色海岸までの提燈行列には3,000人が参加して延々長蛇の列をなし、海上では、船所有者のご好意でクルーザー3隻が満艦飾で回航され、素晴らしい海のページェントを繰り広げ、一色・長者ヶ崎を結ぶ沖合500メートルでは、約570発の花火が次々に打ち上げられ、新御用邸の落成をお喜び申し上げると共に、ご滞在中の兩陛下をお慰め申し上げた。

天皇陛下には即日、この日のご感想を次のように述べられた。

「明治以来親しみ、また、長年生物学の研究をして来たこの地を10年ぶりにたずねることができ、大変うれしく思った。逗子や葉山の人たち多数が沿道で出迎えてくれ、ちょうちん行列、満艦飾、花火を見てうれしく思い、特に花火は久しぶりに見たので大変美しく楽しかった」。

ご滞在中の兩陛下には、29日御用邸で御静養、30日午前中は江の島水族館に行かれ、午後1時47分御用邸ご出門で皇居へ御還幸啓あそばされた。

この文は、田中富葉山町長がお書なったものの略です。葉山郷土史家より入手していましたので、この機会に葉山御用邸ついて誘致に失敗したとか。過去に調査した経過もあり、鶴沼には御用邸に関するかぎりは何も無かったと私は思います。

おわり

「鵠沼」平成3年 7月 9日60号

平成 3年 7月 9日発行

三浦半島の文化財をたずねて。

文化財をたずねて川島禎一孝子

葉山御用邸について塩 沢 務

発行所 鵠沼公民館

藤沢市鵠沼海岸2-10-34

電話33-2001

編集鵠沼を語る会代表塩沢 務

藤沢市鵠沼海岸3-12-33

電話36-7876